

## 令和6年度3回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和7年1月30日（水）10：00～11：30
2. 開催場所 釜石市上中島児童館
3. 出席者等 <出席委員 12人>  
佐々木江利委員、平松寿偉委員、八幡英貴委員、木村仁寿委員、松岡公浩委員、  
藤原けいと委員、芳賀睦美委員、佐々木晴美委員、菊池利行委員、藤原伸哉委員、  
福成菜穂子委員、黍原豊委員  
<市側出席者>  
釜石市保健福祉部長 鈴木 伸二  
釜石市保健福祉部こども家庭課長 村山 明子  
こども家庭センター長補佐 松下 智子  
課長補佐兼子育て支援係長 菊池 喜子  
子育て支援係 課付係長 芳賀 沙織  
釜石市教育委員会事務局学校教育課 主任指導主事 石龜 雅也
4. 傍聴者 0名
5. 結果
  - (1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について（説明）  
主な発言・意見はなし
  - (2) 第3期釜石市子ども・子育て支援事業計画の素案について（協議）  
<主な意見、質問等>
    - 漢字の「子ども」とひらがなの「こども」の表記の違いは何か。  
→漢字表記は、18歳までの児童を示しており、ひらがな表記は、年齢を区分せず心と身体の発達の過程にある者を示している。
    - 釜石市で屋内の遊び場の整備予定はあるか。  
→今後、国の補助金等を活用して整備を進める予定である。
    - 「子育て世帯訪問支援事業」や「児童育成支援拠点事業」は、市が独自で実施するのか、もしくは委託して実施するのか。  
→委託して実施する予定である。
    - 「乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）」について、釜石市では令和7年度は実施しないという理解で良いか。  
→お見込みのとおり、実施しない予定である。
    - 「子育て世帯訪問支援事業」について、令和9年度から実施ということですが、それまでの間、相談を受けた際はどこに繋げばいいのか。  
→こども家庭センターが受付窓口となる。
    - 室内の遊び場が欲しいという声は、他の保護者からもよく聞くが、実際は、児童館や上中島こども園のタンタン広場に行っても、いつも同じメンバーである。また、保護者によって対応が全然違う。毎週のように色々なところに連れていく保護者もいれば、子どもだけ放置している保護者もいる。また、

周知不足であれば、保護者にはもちろんだが、子ども本人が直接情報を知ることができるといふ。

→子ども向けの情報発信については、今後必要だと思っている。

●子どもの居場所について、新しい施設を作るのは無理だと思うので、今ある施設を活用することはできないのか。例えば、学校や校庭など。昔は、学校の校庭を遊び場としていた。

→児童館など、今ある施設を活用する必要がある。また、放課後子ども教室を各地区で実施していくので、今後、学童育成クラブ等と連携しながら、子どもの居場所づくりとして実施していく。

●不登校の児童・生徒について、別室登校とは違うタッチ登校というのがあるのだが、これは出席扱いになるのか。

→出席扱いとなる。

●市役所における男性の育児休業取得率の目標値の記載はあるが、その目標を達成するための施策が記載してなかつたが、何か具体的な取組はあるのか。

→市総務課と確認し、具体的な取組について計画に記載したい。

●幼児教育アドバイザーについて、新たな人を幼児教育アドバイザーとして配置するのか、現在施設に在籍している職員が、幼児教育アドバイザーとして配置になるのか。

→現在施設に在籍している職員を、幼児教育アドバイザーとして委嘱する予定。

●「すこやか子育て基金」を活用したことの施設の推進について、例えば、子育てサークルなどの活動費用についても、この基金を活用して補助金の交付などはできないのか。

→そういう団体があるようであれば、検討していきたい。